



広 報

めいけ

新潟市立女池小学校
学 校 だ よ り
令和5年12月22日

<冬休み前全校朝会講話>

「心」と「形」

校長 田中 修二

「せり、なずな、ごぎょう、はこべら、ほとけのぞ、すずな、すずしろ、春の七草」

早春にいち早く芽吹く七草は、一年の無病息災を願い、七草粥として1月7日に食べる風習があります。新年を健やかに過ごしたい願いがありますね。

明日から冬休みに入ります。楽しみにしていることと思います。

これから寒さもどんどん厳しくなります。どうか元気で、新年1月に会いましょう。

今日は「心」と「形」のお話をします。

心は、直接目で見ることはできないものです。ですから、私たちは行動や言葉から、相手のことを受け止めます。どんなに**すてきな愛情あふれる心をもっている**としても、人を傷つける言葉や行動を見聞きすると、**素敵な愛情あふれる人とは受け取れない**のです。

例えば、優しい言葉を掛けてくれた人は、「優しい人」と受け取れますが、いつも傷つける言葉をつかっていると「傷つける人」なんだと受け止めてしまいます。そう考えると「形」も大切にしなければならないと思います。

そこで「礼儀」と「マナー」です。

礼儀とマナーは、人と人との関係や社会生活をスムーズにする上で必要だからこそ生まれたのでしょう。私たちは生活していく中で必要な礼儀とマナーのような「形」を身につけることは大切なことなのです。どれほど「中身はしっかりしている」「温かい心がある」と言っても、実際の言葉や行動が他人を傷つけたり不愉快な思いをさせたりするならば周りに安心や心地よさをもたらすことはできないでしょう。

礼儀やマナーを考えるときに大切なことは、相手を自分と同じように**かけがえのない人**なんだと認め、相手に対して**尊敬や感謝の気持ち**を「形」で示すことではないでしょうか。

また、そうした気持ちさえもっていればいい、ということではなく「心」「形」が**一体となって**こそ相手に伝わり、周りにも安心感や温かさが広がります。

心は目に見えませんが、私たちは何をするときも、必ず心を働かせます。一つの言葉、一つの行いにも温かな気持ちを込め、相手を思いやる礼儀とマナーのような「形」も大切にしたいものです。

年末年始、皆さんもいろんな人とお会いするかもしれません。

どうか、いつでも礼儀やマナーを大切にしてください。

2024年（令和6年）1月。皆さんが元気に登校してくることを待っています。

どうかよいお年を。



< 1月の予定 >

日	月	火	水	木	金	土
12/31	1 元日(祝日)	2 年末年始の休日	3 年末年始の休日	4 学校閉庁日 諸校費振替日	5 冬季休業日	6
7	8 成人の日(祝日)	9 授業再開 全校朝会 3時間授業 給食なし	10 フッ化物洗口 給食再開	11 5学年リモート 会社見学	12 5学年リモート 会社見学	13
14	15	16 委員会活動	17 フッ化物洗口 市小研の日 4時間授業 給食あり	18	19	20
21	22 給食週間 (~1/26)	23 4学年総合 車椅子体験 視覚体験	24 フッ化物洗口	25 1~3学年 学習参観 学年懇談	26 3学年総合 ゲスト ティーチャー 4学年総合 ゲスト ティーチャー	27
28	29 ハートチェック	30	31 フッ化物洗口 1~2学年 モルちゃん 引継ぎ式 3学年総合 ゲスト ティーチャー	2/1 全校朝会 学校保健委員会	2	3

女池小学校は今年

～150周年記念事業を振り返って～

今年度は、創立150周年記念事業で盛り上がった一年間となりました。

5月：スポーツDAYでの記念応援

7月：空撮

11月：記念式典挙行と記念誌、記念品の配付

4年ぶりに保護者の皆様に観覧いただいたミュージックDAY

女池っ子たちの頑張り、保護者、地域の皆様のご理解ご協力をいただいたおかげで、無事にこれまでの事業を終えることができました。ありがとうございました。

記念式典の中で、実行委員長の佐藤雅之様（女池校区コミュニティ協議会 会長）から「次の200周年に向けて動き出しました」といったお話がありました。

女池小学校の歴史はこれからも続きます。

ここで一区切りではなく、ますます発展できるよう、当校の教職員一同、精一杯努めます。

保護者、地域の皆様におかれましては、当校の教育活動に引き続き、ご理解ご協力をいただけますよう、お願いいたします。

150周年

「かけがえのない存在 願いの結晶」

校長 田中 修二



令和5年も12月となりました。

12月といえば「師走(しわす)」という呼び方が思い浮かぶことが多いと思います。「師走」の由来は、僧侶(師)のような普段落ちついている人でも、この月は多忙で走り回るようになるという意味から名付けられたという説があります。また、12月は1年の最後の月の意味から「極月(ごくげつ、ごくづき)」、「窮月(きゅうげつ)」、「限りの月(かぎりのつき)」などの異称があります。

また、古い年を除くという意味で、「除月(じょげつ)」とも呼ばれます。これは、大晦日の晩を「除夜(じょや)」と呼ぶのと同じ理由です。この他にも「梅初月(うめはつづき)」や「春待月(はるまちづき)」といわれ、春への期待が込められた意味でも呼ばれることもあります。1年の終わりであると共に、新しい一年に思いを馳せる月でもあるのです。

さて、年末年始になると、皆さんも懐かしい人、久しぶりに会う人がいると思います。その一人ひとり、そしてもちろんあなたもかけがえのない存在です。



今ここにいる私たちは「次の世代の幸せを願う温かい思いを受け継いできた無数の先人たち」の願いの結晶です。

私たちは自分の力でこの世に生まれてきたのではなく、だれの力も借りずにここまで育ったのではありません。家族はもちろんですが、数え切れない人の力を借りているのです。

ですから「自分は自分だけの考え一つでどのようにしてもよい、何をしてもよい」とは言えないでしょう。

また、かけがえのない存在であるのは自分だけでなく他の人々も同じです。人は、誰でも短所もあれば過ちを犯すこともあり、感情のもつれを生じることもあるでしょう。そんなときは「一人ひとりかけがえのない存在である」という事実を思い起こしてみましょう。

不安なことがあると、ただただ人を責めると、相手も自分もかけがえのない存在であることを忘れてしまいます。悲しくて残念なことです。しかし、苦しいこと悲しいことに直面したとき先人である親や大人が支えてくれて乗り越えられた、次の世代である子供の笑顔が励みになったという人が沢山います。



今の私たちは先人の願いと未来への希望の間にいます。未来への願いと愛情をつなぐかけがえのない役割があるのではないのでしょうか。

自分も相手も大切にしつつ愛情という「心の栄養」を分かち合える関係を結んでいくこと、それは私たちに安心をもたらし、豊かな日々を築く礎になることでしょう。